

次世代を担う男女産婦人科医師キャリアサポート委員会調査結果報告書

男女共同参画委員会 委員長 竹下 俊行

次世代を担う男女産婦人科医師キャリアサポート委員会

委員長 杉浦 真弓

委員 内田 聡子、奥田 美加、北澤 正文、桑江 千鶴子、小林 陽一、
澤 倫太郎、清水 幸子、東館 紀子、間壁 さよ子、宮城 悦子、
山田 榮子、吉田 幸洋

要旨

「次世代を担う男女産婦人科医師キャリアサポート委員会」では、産婦人科医師に対して今後どのような支援を行っていくことが現在の医療レベルを維持し、よりよい労働環境を得るために必要かを調べるために、日産婦学会員に対して精神面を含めた意識調査を実施した。2009年12月から翌年1月に自記式調査を行い、回答はファックスもしくはe-mailで返信する方法を用いた。また、2010年4月の日産婦学術集会でも追加調査を行った。

1301人から回答を得た。産婦人科女性医師の未婚率、離婚率は男性より高く、子どもの数は少ないことがわかった。女性医師の43.3%が「産婦人科医であることが結婚や婚活の妨げになる」と感じていた。男女ともに未婚者、また、子どもが少ないほど仕事満足度が低く、抑うつが強いことも明らかであり、未婚者の精神的支援が必要であると考えられた。

産休・育休が取得できた女性医師は62%、27%と低いながら、男性医師の配偶者女性より高率であった。女性医師の配偶者は産婦人科医を含む医師が多く(63.9%、内、産婦人科医14.0%)、男性医師の配偶者は専業主婦が53.7%を占めていたことから、産婦人科女性医師は他の職種よりも産休・育休を取得できていると推測できた。

女性医師の34%が「子どもを先送りにするように言われた」経験があった。キャリアのために出産を先送りにして、合計特殊出生率が低下することは先進国共通の問題であるが、妊娠の高齢化によって不妊症、流産、妊婦死亡が増加することを熟知している産婦人科医師であればこそ、同僚女性医師にこのような発言をすることは今後慎まなければならない。

男女の年齢差が11歳あり、その影響は無視できないが、女性医師は勤務時間が短く、当直が少なく、パート勤務が多く、年収が少なく、大学・病院(3-10人規模)に勤務している特徴があった。年収は少ないが、配偶者の年収は多いことが確認された。

手術、分娩、教育には男性医師の方が多く従事していた。男性医師は仕事量を多いとしながらも「仕事の自己決定はできている」と感じていた。

男性医師の30%、女性医師の35%が分娩を取り扱っておらず、女性医師の方が早期にやめていた。分娩を辞めた理由として男性医師はモチベーションがなくなったためであり、女性医師は妊娠・出産・育児がきっかけであった。分娩を扱っている男性医師の50%、女性医師の47%が強い意志を持って継続しているが、他は将来的にやめる、または継続について不明としている。しかし、やめている女性医師の37%は再開の可能性を持っており、適切な分娩再開のための研修、積極的な勧誘などの支援が有効かも

しれない。分娩をやめている人の特徴は女性、既婚、子どもがいる人であった。また、分娩をやめている人は分娩取り扱いのある人に比べ、年収は少なく、配偶者の年収は多く、勤務施設の医師数は少なく、勤務時間は短く、当直数は少なく、仕事量は少なく、仕事の自己決定ができ、同僚の理解は少ない傾向が認められた。裁判経験、医療事故の経験、上司の理解、情緒的支援者の数、情緒的支援満足度、気分障害の有無は分娩取り扱いの有無の間に有意差はみられなかった。

仕事満足度は平均 74.2 点 (100 点満点) であり、性差はみられなかった。未婚者、子どもの少ない人、大学勤務者で低く、本人の年収、配偶者の年収と関連していた。また、勤務時間が長く、当直が多いほど満足度は低いことがわかった。仕事量は関係なく、自分で仕事を調節できること、上司・同僚の支援、情緒的支援に満足度の高い人ほど仕事満足につながっていることもわかった。

「K6」は米国精神医学会が 2002 年に作成したスクリーニング検査である。K6 が 10 点以上となる調査対象の 49% に抑うつ、不安障害があると報告され、本邦での有用性も立証されている。今回調査の結果、8.4% に臨床的に問題となる程度の気分障害、不安障害が存在することが危惧された。これは日本人一般集団における 1.9% という報告と比較して高頻度であった。

K6 は、仕事満足度と負の相関があった (-0.401 , $p < 0.0001$)。年齢とわずかな相関があり、子どもの数、年収が少ないほど高く、大学勤務者、分娩、手術、研修を行っている人が高いことがわかった。勤務時間が長く、当直が多いほど高く、医師数が多いと意外にも高いことが分かった。これは大学勤務との関係があるかもしれない。仕事量が多いと感じているほど、また仕事の自己決定権がないほど、上司・同僚の支援が少ないほど、情緒的支援の満足度が低い人ほど K6 が高いことも明らかになった。若い医師に自己決定権を与えることが精神的支援につながるかもしれない。

抑うつ (K6 が 10 点以上) の危険因子として、子どもが少ない、年収が少ない、勤務時間が長い、当直が多い、労働量が多い、仕事の自己決定ができない、上司・同僚の支援が少ない、情緒的支援の満足度が低いことがあげられたが、ロジスティック解析の結果は年収、労働量、自己決定、情緒的支援満足度のみが独立した危険因子であることが分かった。

K6 はスクリーニング検査であり、気分障害、不安障害の診断には面接が必要であるが、激務の産婦人科医師にうつ病、不安障害が存在することは容易に推測できる。産婦人科医師の burnout を予防するために、上述の危険因子に該当する状況を是正することが大切である。すなわち、仕事に見合った収入を与え、分娩、手術に従事する人に手厚くし、勤務時間、当直が過重にならないように、特に大学で配慮が必要である。また、精神的支援が受けられにくい未婚者、子どものいない人に配慮が必要と考えられた。

最後に、産婦人科医師が今後も分娩を継続していくために重要と思われる項目として、①労働環境の整備、②社会全体の理解、③分娩が危険であるという事実を妊婦が自覚するように啓発する、が上位を占めた。本会が前述のエビデンスを理解し、産婦人科医師支援を行っていくことが重要である。

A 性・年齢

① 性別をお答えください。 (1)女性 (2)男性

② 年齢をお答えください。 満 () 歳 卒後 () 年目

総数：1301人

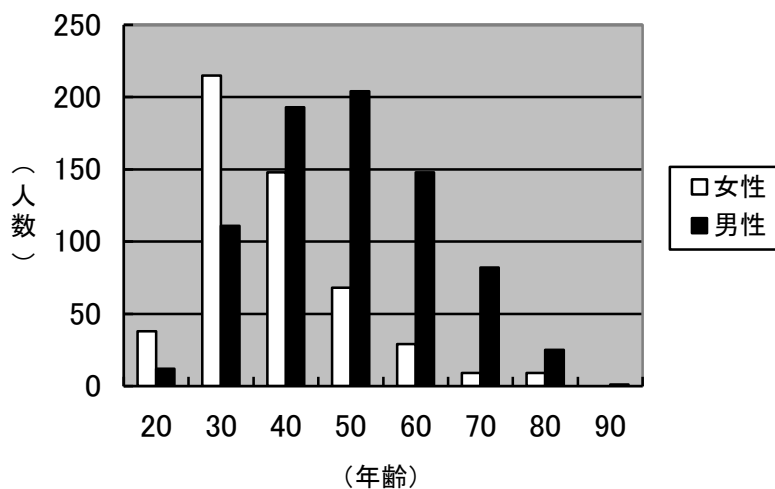
女性：517人 (39.7%)

男性：777人 (59.7%)

平均年齢 (全体)：49.5歳 (14.2) かつこ内は標準偏差値

女性：42.5歳 (12.0)

男性：53.9歳 (13.5)



B 結婚, 配偶者

① 配偶者の有無についてお答えください。

(1)あり→初婚 () 歳 (2)離婚または死別→初婚 () 歳 (3)未婚 (→④へ)

結婚	結婚あり	初婚年齢	離婚または死別	未婚
女性	335 (68.0%)	27.8 (9.5%)	44 (8.9%)	114 (23.1%)
男性	660 (93.8%)	31.6 (11.1%)	22 (3.1%)	22 (3.1%)

◆男性よりも女性の未婚率、離婚率が高い p<0.0001

② ①で(1), (2)と答えた方, 配偶者の仕事をお答えください。

(1)産婦人科医師 (2)それ以外の医師 (3)医師以外の仕事 (4)無収入あるいは無職 (→④へ)

配偶者の仕事	産婦人科医師	それ以外の医師	医師以外の仕事	無収入・無職
女性	56 (14.0%)	200 (49.9%)	131 (32.7%)	14 (3.5%)
男性	35 (4.8%)	75 (10.3%)	229 (31.3%)	393 (53.7%)

◆女性医師の配偶者は同業者が多い p<0.0001

◆男性医師の配偶者は専業主婦が多い

③ ②で(1), (2), (3)と答えた方, 配偶者のおおよその年収をお答えください。

- (1) I (2) II (3) III
 (4) IV (5) V (6) VI (7) VII

注: 選択肢金額を7段階に分けた。I (低) → VII (高)

配偶者の年収	I	II	III	IV	V	VI	VII
女性	9 (2.3%)	47 (12.2%)	110 (28.6%)	119(30.9%)	58 (15.1%)	23 (6.0%)	19 (5.0%)
男性	67 (18.7%)	117 (32.7%)	83 (23.2%)	45 (12.6%)	20 (5.6%)	12 (3.4%)	14 (3.9%)

◆女性の配偶者は年収が多い p<0.0001

④ 産婦人科医であることが, 結婚や結婚活動の妨げになったことがありますか。

- (1) まったくない (2)ほとんどない (3)多少ある (4)かなりある (5)非常にある

結婚妨げ	まったくない	ほとんどない	多少ある	かなりある	非常にある
女性	146 (28.7%)	102 (20.0%)	146 (28.7%)	78 (7.3%)	37 (7.3%)
男性	410 (54.4%)	160 (21.2%)	121 (16.1%)	43 (5.7%)	20 (2.7%)

◆男性よりも女性にとって産婦人科医師であることは結婚や婚活の妨げになっている p<0.0001

C 子ども, 育児

① お子さんの人数, 年齢をお答えください。いないときは「0」と記入して次は③に進んでください。

子どもの数	0	1	2	3	4	5
女性	175 (35.4%)	109 (22.1%)	132 (26.7%)	68 (13.8%)	8 (1.6%)	2 (0.4%)
男性	81 (10.5%)	102 (13.2%)	292 (37.8%)	253 (32.7%)	39 (5.1%)	6 (0.8%)

◆子どもの数は女性より男性の方が有意に多い p < 0.0001

② ①でお子さんがあると答えた方 (男性も), あてはまるものを1つ選んで下さい。配偶者が無職の場合, 1. 2. 3. は「0」にしてください。

		1 違う	2 部分的に	3 そうだ
1. 妻の産休が規定どおり取得できた	0	1	2	3
2. 夫婦どちらかの育休が取得できた	0	1	2	3
3. 保育所が確保できた	0	1	2	3
4. 妊娠・出産・育児をうまく乗り越えることができた		1	2	3
5. 育児を協力してくれる人手が確保できた (配偶者含む)		1	2	3
6. 家事を協力してくれる人手が確保できた (配偶者含む)		1	2	3
7. 職場環境がよかった (同僚上司の理解, 労働軽減など)		1	2	3

産休が取得できた	違う	部分的に	そうだ
女性	59 (19.7%)	55 (18.3%)	186 (62.0%)
男性	88 (37.8%)	40 (17.2%)	105 (45.1%)

◆男性医師の配偶者（専業主婦ではない）よりも産婦人科医師である女性は産休が規定通りに取得できている $p<0.0001$

育休が取得できた	違う	部分的に	そうだ
女性	157 (52.5%)	60 (20.1%)	82 (27.4%)
男性	133 (58.6%)	39 (17.2%)	55 (24.2%)

◆男性医師の配偶者も産婦人科医師である女性も育児休暇が取得できたのは3割に満たない NS

保育所が確保できた	違う	部分的に	そうだ
女性	54 (17.9%)	71 (23.6%)	176 (58.5%)
男性	101 (42.8%)	39 (16.5%)	96 (40.7%)

◆産婦人科女性医師は男性医師の配偶者よりも保育所が取得できている $p<0.0001$

妊娠・出産・育児をうまく乗り越えた	違う	部分的に	そうだ
女性	26 (8.3%)	155 (49.2%)	134 (42.5%)
男性	43 (6.5%)	207 (31.1%)	415 (62.4%)

◆男性は女性よりも妊娠・出産・育児をうまく乗り越えることができたと感じている $p<0.0001$

育児協力者が確保できた（配偶者含む）	違う	部分的に	そうだ
女性	19 (6.0%)	118 (37.2%)	180 (56.8%)
男性	86 (12.9%)	209 (31.3%)	373 (55.8%)

◆男性は育児を協力してくれる人手（配偶者含む）が確保できなかったと感じた人が多かった $p=0.0027$

家事協力者が確保できた（配偶者含む）	違う	部分的に	そうだ
女性	64 (20.3%)	115 (36.4%)	137 (43.4%)
男性	132 (19.8%)	204 (30.5%)	332 (49.7%)

◆NS

職場環境が良かった	違う	部分的に	そうだ
女性	56 (17.8%)	130 (41.3%)	129 (41.0%)
男性	248 (37.8%)	224 (34.2%)	184 (28.1%)

◆男性の方が女性よりも同僚上司の理解、労働軽減等の職場環境が悪くなかったと感じている $p<0.0001$

③ 上司・同僚から子どもを作るのは少し後にするように（または類似することを）言われたことがありますか. (1)ない (2)ある

子ども先送り	ない	ある
女性	306 (65.4%)	162 (34.6%)
男性	711 (96.0%)	30 (4.1%)

◆女性の 34.6%が上司・同僚から子どもを作るのを先送りにするように言われた $p<0.0001$
Odds Ratio 12.5

④ 配偶者がいてお子さんのいない方は、子どもを持ちたいと思います（思いました）か.
(1)思わない (2)思う (3)そのほか ()

子どもを持ちたい	思わない	思う
女性	6	75
男性	17	75

D 職業, 勤務

① もっともあてはまる勤務形態を1つ選んでお答えください.

- (1)大学病院の産婦人科 (2)病院の産婦人科 (3)診療所の産婦人科（開設者含む）
(4)産婦人科以外の臨床科 (5)医学研究職（留学中） (6)それ以外（ ）

勤務形態	大学病院 産婦人科	病院の 産婦人科	診療所の 産婦人科	産婦人科 以外の臨床	研究職 (留学中)	その他
女性	102 (19.8%)	211 (41.1%)	157 (30.5%)	9 (1.8%)	6 (1.2%)	29 (5.6%)
男性	135 (17.5%)	253 (32.7%)	339 (43.9%)	12 (1.6%)	9 (1.2%)	25 (3.2%)

◆病院勤務医は女性が多い $p<0.0001$

② ①で(1)-(6)と答えた勤務のある方、時間形態をお答えください. (1)フルタイム (2)パートタイム

勤務形態	フルタイム	パートタイム
女性	408 (83.8%)	79 (16.2%)
男性	673 (94.8%)	37 (5.2%)

◆女性にパートタイムが多い $p<0.0001$

③ 勤務先の産婦人科医師数をお答えください。 自分を含めて () 人

医師数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	20	30	40	50	60
女性	101 20.4%	64 12.9%	52 10.5%	56 11.3%	31 6.3%	21 4.2%	21 4.2%	16 3.2%	13 2.6%	66 13.3%	36 7.3%	12 2.4%	2 0.4%	3 0.6%	2 0.4%
男性	277 37.0%	94 12.6%	63 8.4%	46 6.1%	30 4.0%	30 4.0%	25 3.3%	15 2.0%	13 1.7%	75 10.0%	46 6.1%	19 2.5%	8 1.1%	4 0.5%	4 0.5%

◆女性は単独勤務が少なく、3～10人のところに多い p<0.0001

④ 平均的な一週間の勤務時間をお答えください。 週 () 時間

一週間の勤務時間	平均 (標準偏差)
女性	49.4 (22.7)
男性	55.6 (27.1)

◆女性は勤務時間が短い p<0.0001

◆女性は短時間勤務者が多い p<0.001

⑤ 平均的な一月の平均当直回数をアルバイトなど全てを含めてお答えください。

月当直回数	平均 (標準偏差)
女性	4.6 (6.6)
男性	7.2 (9.0)

◆女性は当直回数が少ない p<0.0001

⑥ おおよその年収をお答えください (勤務医は税込み年収, 開業医は可処分所得)。

- (1) I (2) II (3) III
(4) IV (5) V (6) VI (7) VII

注: 選択肢金額を7段階に分けた。I (低) → VII (高)

年収	I	II	III	IV	V	VI	VII
女性	2 (0.4%)	33 (6.5%)	166 (32.4%)	173 (33.8%)	76 (14.8%)	29 (5.7%)	33 (6.5%)
男性	12 (1.6%)	39 (5.2%)	88 (11.6%)	205 (27.1%)	198 (26.2%)	105 (13.9%)	110 (14.5%)

◆女性は年収が少ない p<0.0001

⑦ 手術に従事していますか。 (1)はい (2)いいえ

⑧ 教育や指導に従事していますか。 (1)はい (2)いいえ

⑨ 研究に従事していますか。 (1)はい (2)いいえ

⑩ 研修中あるいは勉強中ですか。 (1)はい (2)いいえ

手術に従事	はい	いいえ	
女性	351 (69.3%)	157 (30.7%)	
男性	604 (78.5%)	165 (21.5%)	p=0.0002
教育に従事	はい	いいえ	
女性	257 (50.3%)	254 (49.7%)	
男性	467 (60.7%)	303 (39.4%)	p=0.0003
研究に従事	はい	いいえ	
女性	109 (21.3%)	402 (78.7%)	
男性	196 (25.5%)	573 (74.5%)	p=0.088
研修中 (勉強中)	はい	いいえ	
女性	139 (27.4%)	369 (72.6%)	
男性	120 (15.8%)	641 (84.2%)	p<0.0001

◆女性は手術、教育に従事していない

⑩ あなたのお仕事についてお答えください。

	(1)そうだ	(2)まあそうだ	(3)あまりそうでない	(4)違う
1. 一生懸命働かなければならない	1	2	3	4
2. 非常にたくさんの仕事をしなければならない	1	2	3	4
3. 時間内に仕事が処理しきれない	1	2	3	4
4. 自分のペースで仕事ができる	1	2	3	4
5. 自分で仕事の順番, やり方を決めることができる	1	2	3	4
6. 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる	1	2	3	4

⑪ あなたの上司, 同僚についてお答えください。上司, 同僚がいなときは「0」にしてください。

	いない	(1)非常に	(2)かなり	(3)多少は	(4)全くない
1. 上司とは気楽に話せる	0	1	2	3	4
2. 同僚とは気楽に話せる	0	1	2	3	4
3. 困ったとき上司は頼りになる	0	1	2	3	4
4. 困ったとき同僚は頼りになる	0	1	2	3	4
5. 個人的な悩みを上司は聞いてくれる	0	1	2	3	4
6. 個人的な悩みを同僚は聞いてくれる	0	1	2	3	4

仕事量⑩1+2+3	平均 (標準偏差値)
女性	5.9 (2.2)
男性	5.5 (3.5) p=0.07

仕事自己決定①4+5+6	平均 (標準偏差値)	
女性	6.5 (2.1)	
男性	5.9 (2.1)	p<0.0001
上司の理解②1+3+5	平均 (標準偏差値)	
女性	6.8 (2.2)	
男性	6.9 (2.4)	NS
同僚の理解②2+4+6	平均 (標準偏差値)	
女性	6.3 (2.3)	
男性	6.2 (2.2)	NS

◆男性は仕事量が多いと感じている

◆男性は仕事の自己決定が出来ると感じている

⑬ あなたの仕事満足度は 100 点満点で何点ですか () 点

仕事満足度	平均 (標準偏差値)
女性	74.3 (15.7)
男性	74.2 (16.8)

◆仕事満足度に性差はない

E 分娩

① 現在、分娩を取り扱っていますか

(1)はい (2)いいえ→卒後 () 年目でやめた (→③へ) (3)産休・育休中 (→③へ)

	分娩取り扱いあり	分娩取り扱いなし	分娩中止年次	産休・育休中
女性	317 (61.8%)	184 (35.9%)	15.2 (10.8)	12 (2.3%)
男性	531 (69.1%)	238 (30.9%)	26.1 (12.7)	0

◆男性の方が分娩取り扱い率は有意に高い p=0.017

◆女性の方が有意に早くやめていた p<0.0001

② ①で(1)と答えた分娩の取り扱いのある方、分娩をやめる可能性がありますか (次は⑤へ)

(1)2年以内にやめる (2)3-5年でやめる (3)いつかやめる (4)わからない (5)やめる計画はない

分娩をやめる可能性	2年以内にやめる	3-5年でやめる	いつかやめる	わからない	やめる計画はない
女性	8 (2.7%)	8 (2.7%)	53 (17.9%)	86 (29.0%)	142 (47.8%)
男性	13 (2.6%)	31 (6.2%)	131 (26.2%)	73 (14.6%)	253 (50.5%)

◆分娩取り扱いのある女性の 47.8%、男性の 50.5%がやめる計画はないと答えた

③ ①で(2), (3)と答えた分娩の取り扱いのない方、分娩を再開する可能性がありますか

(1)2年以内に再開 (2)3-5年で再開 (3)いつかは再開 (4)わからない (5)再開の計画はない

分娩を再開する可能性	2年以内に再開	3-5年で再開	いつか再開	わからない	再開する計画はない
女性	11 (5.8%)	3 (1.6%)	14 (7.4%)	42 (22.1%)	120 (63.2%)
男性	1 (0.4%)	1 (0.4%)	4 (1.7%)	15 (6.4%)	214 (91.1%)

◆分娩を辞めた男性は再開計画がない p<0.0001

④ ①で②と答えた分娩取り扱いをやめた方、理由はなんですか(5つまで複数可、最重要は最上段に)。

- (a)分娩を取り扱うモチベーションがない (なくなった) (b)労働環境(条件)が悪い
(c)健康上の理由(不妊治療を含めて) (d)医療事故・裁判などあるいはその不安
(e)家族の協力が得られなかった (f)妊娠・出産・育児
(g)上司・同僚の理解が得られなかった (h)その他()

分娩をやめた理由(最重要)	女性 187	男性 244	重要と答えた(複数)
分娩を取り扱うモチベーションがない	32 (17.1%)	74 (30.3%)	女性<男性 p=0.0186
労働環境が悪い	26 (13.9%)	40 (16.4%)	NS
健康上の理由(不妊治療も含めて)	13 (7.0%)	28 (11.5%)	NS
医療事故・裁判などあるいはその不安	19 (10.2%)	26 (10.7%)	NS
家族の協力が得られなかった	5 (2.7%)	2 (0.8%)	女性>男性 p<0.0001
妊娠・出産・育児	41 (21.9%)	0 (0%)	女性>男性 p<0.0001
上司・同僚の理解が得られなかった	4 (2.1%)	6 (2.5%)	NS
その他(高齢、開業など)	34	49	NS

◆女性が分娩をやめた最も多い理由は妊娠・出産・育児であった。

⑤ 今後も産科医が分娩取り扱いを継続するために重要だと思うことをお答えください

(5つまで複数可、最重要は最上段に)。

- (a)労働環境の整備(交代勤務、短時間勤務など) (b)上司、同僚の理解
(c)保育施設の充実 (d)育児休暇の延長、給与の支給
(e)収入の増加(労働に見合った収入) (f)育児休暇から復帰する際の研修制度など
(g)妊婦の意識改革* (h)家族(配偶者、両親など)の理解
(i)社会全体の理解 (j)行政の理解 (k)その他()

* (g)分娩が危険を伴うということ、加齢とともに異常が増加、コンビニ受診をやめるなどを啓発する

	女性	男性	重要と答えた（複数）
労働環境の整備	309 (61.3%)	399 (53.0%)	女性>男性 p=0.01 1,140/1,257 (90.7%)
上司同僚の理解	10 (2.0%)	9 (1.2%)	女性>男性 p<0.0001 271 (21.6%)
保育施設充実	15 (3.0%)	11 (1.5%)	女性>男性 p<0.0001 478 (38.0%)
育児休暇の延長、給与の支給	0	1 (0.1%)	NS 106 (8.4%)
収入増加	23 (4.6%)	95 (12.6%)	女性<男性 p<0.0001 793 (63.1%)
育児休暇から復帰する際の 研修制度	3 (0.6%)	1 (0.1%)	女性>男性 p<0.0001 137 (10.9%)
妊婦の意識改革	64 (12.7%)	114 (15.1%)	女性>男性 p<0.0001 835 (66.4%)
家族の理解	25 (5.0%)	9 (1.2%)	女性>男性 p<0.0001 334 (26.6%)
社会全体の理解	36 (7.1%)	88 (11.7%)	女性<男性 p<0.0001 838 (66.7%)
行政の理解	8 (1.6%)	14 (1.9%)	女性<男性 p<0.0001 501 (39.9%)
その他	11 (2.2%)	12 (1.6%)	46 (3.7%)

分娩取り扱い者の特徴	分娩取り扱いあり	分娩取り扱いなし	p
性別	女性 317 (61.8%) 男性 531 (69.1%)	184 (35.9%) 238 (30.9%)	0.017
結婚	結婚 627 (65.9%) 未婚 112 (81.8%)	325 (34.1%) 21 (15.3%)	0.002
子どもの有無	有り 608 (74.6%) 無 354 (88.5%)	207 (25.4%) 46 (11.5%)	<0.0001
平均年齢	45.4 (11.6)	56.6 (14.5)	<0.0001
年収			<0.0001
配偶者の年収			0.004（分娩取り扱いなしのほうが多い）
医師数	8.8 (9.9)	3.1 (6.4)	<0.0001

勤務時間 (週)	60.1 (25.2)	38.9 (18.5)	<0.0001
当直回数	8.3 (8.4)	1.6 (5.4)	<0.0001
仕事量			<0.0001
仕事自己決定			<0.0001
同僚の理解			0.026

◆分娩をやめている人の特徴は女性、既婚、子どもがいる人であった。分娩取り扱いのある人より年収は少なく、配偶者の年収は多く、医師数は少なく、勤務時間は短く、当直数は少なく、仕事量は少なく、仕事の自己決定ができ、同僚の理解は少ない結果であった。

◆裁判経験、医療事故の経験、上司の理解、情緒的支援者の数、情緒的支援満足度、気分障害の有無は有意差はなかった。

F ストレス, 情緒的支援

① 次に該当する人は何人いますか (いないときは「0 人」にしてください)。また、その人たちにどの程度満足していますか。0 人の方はその人がいないことについての満足度をお答えください。

(1)非常に不満 (2)かなり不満 (3)少し不満 (4)少し満足 (5)かなり満足 (6)非常に満足

1. あなたが助けを必要としているときに頼れる人 () 人 満足度 ()
2. プレッシャーを感じたり、ピリピリしたときに気持ちを楽にしてくれる人 () 人 満足度 ()
3. あなたの良い所も悪い所もひっくるめて受け入れてくれる人 () 人 満足度 ()
4. 何が起ころうと、あなたのことを心配してくれる人 () 人 満足度 ()
5. ふさぎこんでいる時、気が楽になるように助けてくれる人 () 人 満足度 ()
6. 気が動転した時、慰めてくれる人 () 人 満足度 ()

情緒的支援者の数	1-6 の平均人数	
女性	2.7 (3.4)	
男性	1.7 (1.5)	p<0.0001
情緒的支援満足度	1-6 の平均満足度	
女性	4.5 (1.3)	
男性	4.2 (1.4)	p=0.001

◆助けを必要としているときに頼れる人は女性の方が多く、満足度も高い p<0.0001, p=0.0009

◆プレッシャーを感じたり、ピリピリしたときに気持ちを楽にしてくれる人は女性の方が多く、満足度も高い p<0.0001, p<0.0001

◆良い所も悪い所もひっくるめて受け入れてくれる人は女性の方が多く、満足度も高い p<0.0001, p=0.0002

◆何が起ころうと心配してくれる人は女性の方が多く、満足度も高い p<0.0001, p=0.0067

◆ふさぎこんでいる時に気が楽になるように助けてくれる人は女性の方が多く、満足度が高い

p<0.0001, p=0.01

◆気が動転した時、慰めてくれる人は女性の方が多く、満足度も高い p<0.0001, p=0.0018

◆情緒的支援は男女とも 75-80%が満足している

② 過去 30 日間、それぞれの項目に対して、どれくらいの頻度で感じていましたか.

	(1)いつも	(2)たいてい	(3)時々	(4)少しだけ	(5)全くない
1. 神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
2. 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
3. そわそわしたり落ち着きがなかったりした	1	2	3	4	5
4. 気分が沈んで、何をしても気が晴れない	1	2	3	4	5
5. 何をするのも骨折りだと感じた	1	2	3	4	5
6. 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

K6	
女性	5.2 (4.8)
男性	5.5 (4.7)

◆K6 は男性の方が高い傾向にある

	K6 10 点以上	臨床的に問題となる程度の気分障害、不安障害の頻度
女性	80/508 (15.7%)	7.7%
男性	136/749 (18.2%)	8.9%
合計	216/1,257 (17.2%)	8.4%

◆産婦人科医師の 8.4%に臨床的に問題になる程度の気分障害、不安障害を抱えている人がいる

③ 裁判を経験したことがありますか. (1)はい (2)いいえ

裁判経験	はい	いいえ
女性	64 (12.6%)	446 (87.5%)
男性	199 (26.1%)	565 (74.0%)

◆裁判経験は男性の方が多い p<0.0001

④ 医療事故やトラブルを経験して悩んだことがありますか. (1)はい (2)いいえ

医療事故で悩む	はい	いいえ
女性	400 (78.4%)	110 (21.6%)
男性	631 (82.8%)	131 (17.2%)

◆医療事故やトラブルを経験して悩んだことは男性の方が多い傾向にあった p=0.051

【仕事満足度と K6 解析】

	仕事満足度	p	K6	p
性別	女性 74.3 (15.7) 508 男性 74.2 (16.8) 750	NS	5.20 (4.81) 508 5.51 (4.67) 749	NS
年齢		NS		0.005 -.080
結婚	既婚 74.8 (15.9) 975 離婚 76.0 (17.9) 59 未婚 70.9 (16.5) 134	0.007	5.25 (4.65) 967 5.38 (4.93) 64 6.04 (4.99) 134	NS
子どもの数	0 71.2 (15.1) 253 1 73.6 (17.5) 208 2 75.6 (15.0) 411 3 75.0 (18.0) 313 4 77.7 (16.1) 45 5 66.9 (25.9) 8	0.006	6.23 (5.08) 254 5.76 (4.98) 205 4.73 (4.19) 416 5.27 (4.87) 307 5.04 (3.68) 46 4.38 (5.32) 8	0.003
本人年収	I 59.6 (26.0) 13 II 69.3 (16.6) 68 III 71.3 (16.2) 251 IV 74.8 (13.5) 370 V 74.8 (13.5) 269 VI 78.1 (15.7) 134 VII 78.0 (19.9) 143	<0.0001	8.15 (7.72) 13 5.65 (5.89) 68 6.25 (5.16) 248 4.87 (4.29) 370 5.32 (4.17) 271 4.23 (4.08) 131 6.04 (5.16) 142	<0.0001
配偶者年収	I 67.8 (21.5) 73 II 75.5 (15.2) 157 III 72.0 (15.6) 191 IV 75.1 (16.5) 162 V 76.7 (15.8) 77 VI 79.0 (15.6) 35 VII 81.2 (15.9) 33	<0.0001	5.90 (5.63) 73 5.77 (4.73) 158 5.81 (5.02) 192 4.53 (3.99) 160 5.25 (4.68) 77 3.74 (3.96) 35 5.63 (4.76) 32	0.07
勤務場所	大学 71.1 (16.4) 234 病院 74.9 (14.4) 456 診療所 75.3 (17.6) 484 他科 70.3 (18.7) 20 研究職 74.0 (16.7) 15 それ以外 73.0 (19.3) 49	0.046	6.33 (5.07) 232 5.10 (4.34) 459 5.24 (4.77) 481 4.74 (4.66) 19 6.20 (6.58) 15 4.62 (4.58) 52	0.01
勤務形態	フルタイム 74.3 (16.3) 1,066 パートタイム 74.2 (14.) 113	NS	0.37 (4.61) 1,055 4.72 (4.35) 112	NS

分娩取り扱い	あり	74.0 (15.9) 832	NS	5.65 (4.71) 835	0.0088
	なし	75.2 (16.6) 409		4.90 (4.72) 403	
	産休中	62.1 (27.9) 12		4.83 (5.32) 12	
手術取り扱い	あり	74.3 (15.9) 941	NS	5.57 (4.58) 937	0.026
	なし	74.4 (17.2) 316		4.85 (5.05) 313	
教育に関与	あり	74.9 (15.2) 710	NS	5.37 (4.57) 710	NS
	なし	73.6 (17.5) 548		5.41 (4.90) 540	
研究に従事	はい	74.1 (15.8) 310	NS	5.41 (4.83) 299	NS
	いいえ	74.4 (16.4) 956		5.38 (4.68) 950	
研修中(勉強中)	はい	73.2 (14.5) 254	NS	6.35 (5.18) 251	0.00079
	いいえ	74.7 (16.5) 992		5.14 (4.56) 987	
裁判経験	はい	75.3 (17.0) 255	NS	5.19 (4.70) 256	NS
	いいえ	74.0 (16.1) 990		5.42 (4.70) 1000	
医療事故で 悩んだ	はい	74.3 (16.0) 1011	NS	5.44 (4.56) 1021	NS
	いいえ	74.2 (17.6) 234		5.08 (5.23) 234	
勤務時間			<0.0001 , -.114		<0.0001 0.167
医師数			NS		0.025 0.064
当直回数			<0.0001 -.100		0.001 0.093
仕事量			NS		<0.0001 -.171
仕事質			<0.0001 -.262		<0.0001 0.267
上司の理解			<0.0001 -.420		<0.0001 0.169
同僚の理解			<0.0001 -.340		<0.0001 0.174
情緒的支援者 の数			NS		NS
情緒的支援者 満足度			<0.0001 0.263		<0.0001 -.236